

研究主題

地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子
～地域との連携による「おおたの未来づくり」を目指して～(2年次)

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和7年1月22日(水)5校時
学校名 大田区立久原小学校
対 象 4学年1組 30名

1 単元名

「久が原防災プロジェクト」
内容のまとめ「防災」(全70時間)

2 単元の目標

校内や自宅などの身近な防災対策について調べるとともに、地域の防災へ取組について、地域の人たちの話を聞く活動を通して、災害時に身を守るために必要なことや地域の防災に取り組む人々の活動や思いについて理解を深める。また、災害時に自分自身や地域を守るために自分たちにできる取組を具体的に考え、防災のために必要な取組を身近な人たちに発信し、防災に対する対策を地域と連携しながら高めようとする態度を育成する。

3 単元の評価規準

観 点	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
単 元 の 評 価 基 準	・ 防災に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。	・ 身近な生活の中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	・ 防災についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自らの社会に参画しようとする態度を育てる。
学 習 活 動 に お け る 評 価 基 準	①災害時に身を守るために必要な用具や環境についての知識を身に付けている。(知識) ②調査活動や発信を、目的や対象に応じ、適切に実施している。(技能) ③防災と自分たちの生活には関連があることを理解し、それらの関係を探究的に学習することで自助・共助・公助の関係性と重要性に気付いている。(探究的学習のよさ) ④防災は、自分を含めた地域の人の思いや努力によって成り立っていることに気付いている。(知識)	①防災に向けた取組を決めるに当たり、目的を意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。(課題の設定) ②防災の現状をよりよく理解するために必要な情報を調査する対象を選びながら収集している。(情報の収集) ③防災に向けて探究して得た情報を比較したり、関連付けたりし、解決の方法を整理・分析して考えている。(整理・分析) ④活動を通して学んだことを、相手や目的に応じて効果的にまとめたり、自己の成長、学びによる自己の変容を伝えていたりしている。(まとめ・表現)	①自己と異なる意見や考えを理解しようとしたり、友達のよさを認めたりしながら、よりよい課題解決につなげようとしている。(自己理解・他者理解) ②自分の意思で、防災についての課題を解決しようと探究的に取り組もうとしたり、自分と異なる意見や考えを生かしたりしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。(主体性・協働性) ③自分と防災に向けた取組をする人々等のつながりに気付き、未来社会のためにできることを考えて行動しようとしている。(将来展望・社会参画)

4 単元設定の理由

本単元は、「防災」を材とした単元であり、「地域や学校の特色に応じた課題」に当たる。

近年、日本では多くの自然災害が起きている。児童が生まれてから起きたものには、2016年の熊本地震や2018年の大阪北部地震、2024年の能登半島地震などがあるが、ニュース等でその事実を知るだけに留まり、それらを身近に感じている児童は少ない。しかし、自然災害は、日本全国いつどこで起きてもおかしくない状況にあるため、日頃から災害についての正しい知識をもち、常に備えをしておくことは、自分の命を守るために重要なことである。

本校の研究主題である「地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を想像する子」を育成するにあたり、「防災」は、児童が自分自身の命を守るために必要性をもって取り組むことのできる課題であり、公助や共助の概念が希薄な小学校段階で、地域との関わりを探究し、新たな知識を獲得することは、本校の研究主題に直結するものと考え。また、家族や地域の人の命を守るために自分たちができることを考えながら探究的な学習を行うことで、自己の生き方へ生かすことができると考えた。

さらに、「おおた未来づくり」の素地を養うために、中学年では探究学習を繰り返し行い、学び方を獲得しておくことが必要である。探究学習に取り組む中で、経験と既習内容を関連付けたり、多面的・多角的に考えたりしながら、未来を創造するための見方・考え方を深めていく。また、教科等横断的な学習を計画的に取り入れていくことで、他教科で学習したことを生かし、地域の社会や生活をよりよく豊かにしようと主体的に取り組む態度を養いたい。

5 児童の実態

(1) 総合的な学習の時間について

第3学年の総合的な学習の時間では、久が原にある「呑川」「遺跡」「公園」を題材に、自分たちが住む町について詳しく調べたり発信したりする活動を行った。自分たちの身近な地域のよさを実感するために、直接見学に行ったり、関わりのある人物と交流したりする中で、地域を支えている存在に気付くことができた。探究学習を重ねることで、課題に対してさらに疑問をもち、解決意欲をもって学習に取り組む姿が増えてきた。

(2) 地域との関わりについて

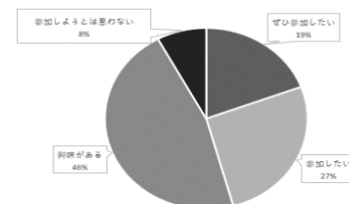
第1学年の生活科「きせつとなかよし」では、千鳥いこい公園に出掛け、季節の移り変わりを身近な場所を通して実感してきた。第2学年の生活科「大すきいっぱいわたしの町」では町探検で、地域の商店や施設を探検し、町の魅力のみならず、自分たちの生活がたくさんの人に支えられていることについて気付いた。

このように、生活科では、身近な自然や地域との関わりについての気付きを大切にし、総合的な学習の時間では、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、探求のプロセスをたどりながら学習活動を発展させていくことを学んでいる。

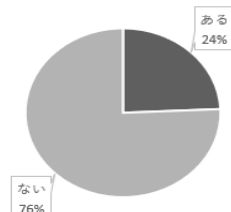
アンケートの結果①より「地域の防災イベントに参加する機会があれば出たい。興味がある。」と、地域の防災について、ポジティブに捉えている児童がほとんどであった。しかし、結果②の「地域の防災について知っているか。」という問いでは、「ない。」と選んだ児童は7割以上である。また、「ある。」と選んだ児童でも、具体的な内容を問われると久が原地域での取組を知っていることはほとんどなかった。

地域の防災についての関心は高いものの、現段階では地域の中の一人という意識は低い。また、一人一人の関心の差も見られるので、自分たちの集めた情報を「誰に・何のために伝えるか」という相手意識を明確にし、「自分ができること」を一人一人が伝えられるようにする。そのために本単元では、地域との交流の機会を多くもち、防災について探究する中で、よりよい地域・社会をつくることについて自分事として捉え、形にしていけるようにする。

地域の防災イベントに参加する機会あったら参加したいと思いますか。



地域の防災の取組について知っていることはありますか。



6 主題に迫るための手だて

中学年分科会で目指す姿
地域のよさを知り、よりよい地域・社会・未来のためにすすんで社会参画する子

- (1) 地域と連携・協働して課題を解決するようにするための手だて
 - ・スクールサポートと連携し、大田区役所や久が原特別出張所、消防署や警察署などの公共機関の方に話しをしてもらうことで、地震に関する正しい知識を学び、地域の防災対策について情報収集できるようにする。
 - ・防災に関する本を久が原図書館の団体貸出で借りたり、地域の防災対策について大田区役所防災危機管理課の方に話を聞いたりすることで、自分たちの困ったことや知りたいことを解決していけるようにする。また、防災設備に関連する企業の方に話しをしてもらうことで、地域には、自分たちの安全を考え、行動してくれている人がいることに気付くことができるようにする。
 - ・児童が地域で地震が起きたらどのように行動するべきか考え、久原フェスタ等で地域の人たちに発信していける機会を設けるようにする。
- (2) 身近な生活・地域・社会から、問題を見付け、自分で課題を立てる機会を設定するための手だて
 - ・避難訓練の2次避難から地域の防災についての関心を高め、疑問や課題を立てる機会を設けるとともに、社会科の学習から自助・共助・公助の視点を学び、地域の防災の大切さに気付くことができるようにする。
 - ・フロアに自然災害に関する本を地域の図書館から借りて設置することで、地震に対して関心をもったり、すすんで調べたりできるようにする。
 - ・児童が長く生活をする場所を視点に、学校や自宅→地域と段階的に地震が起きた場合の行動について考えさせることで、児童が自分で課題を見付けられるようにする。
- (3) 課題解決に向けて必要な情報を適切な方法で集め、考える技法(一次情報と二次情報の分類)等を使って整理分析し、解決へ向けた行動を取ることができるようにするための手だて
 - ・こどもたちに「必要性」をもたせるために、一次情報(自己の経験)を大切にする。
 - ・付箋やオクリンクプラスを活用して個々の考えを集約し、全体で閲覧できるようにすることで、個々の考えが共有され、自己の考えが深化できるようにする。
 - ・思考ツールを繰り返し活用することで、集めた情報を目的や相手に合わせて適切に整理・分析できるようにする。
 - ・学習した内容をポートフォリオにしたりデジタル化にしたりして、いつでもふり返ることができるようにする。
- (4) 自己の生き方を考えることができるような機会や場を設定するための手だて
 - ・学校や地域の中での、児童がよく使用する場所を中心に避難行動を考えさせることで、今後の生活に生かせるようにする。
 - ・授業後に、振り返りの時間を設定することで、毎時間の学習を自己の生き方に繋げられるようにする。
 - ・各小単元の終わりに、学習してきたことを基に自分たちに出来ることを考えさせることで、これからの生き方を考えることができるようにする。

7 おおたの未来づくり科との関連

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
創造的な資質・能力の育成	①問題の発見・解決に必要な情報を収集・活用するための知識及び技能を身に付けている。 ②分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための言語や情報技術を習得している。	①目標と現状、予測と結果、異なる意見などを比較し、問題を発見する力を身に付けている。 ②既習事項や収集した情報、多様な考えを整理して問題の解決策を考える力を身に付けている。 ③問題を発見し、解決方法を考え、結果を予測しながら試行錯誤して解決方法の実行を繰り返し、問題解決を図る力を身に付けている。	①実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集に進んで関わろうとする態度を身に付けている。 ②問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けている。 ③学習を振り返って学習状況を把握し、次の問題発見・解決につなげていこうとする態度を養おうとしている。
中学年としての 目指す姿	○探究学習や発信する過程において、必要な知識及び技能を身に付けている。	○情報を集め、整理・分析して、まとめたことを基に試行錯誤して、地域の社会や生活をよりよくする取り組みを発信することができる。	○実社会で活躍する様々な人との関わりを大切にするとともに、協働学習などにおいて自分や他者のよさを生かしながら主体的に取り組むことができる。

8 教科等横断的な学習

教科	単元名	「総合的な学習の時間」との関連	「おおた未来づくり」との関連
国語	アップとルーズで伝える	アップとルーズの視点を生かし、どのような写真を使えば伝えたい内容を分かりやすく伝えることができるか考えることができるようにする。	写真を用いながら説明することのよさを生かして情報収集ができるようにする。
		説明的文章の構造を理解し、根拠に基づいた説得力のある主張ができるようにする。	活動の中で自分がもった考えを、筋道立てて発信できるようにする。
社会	わたしたちのくらしとごみ	思考ツールを用いた調べ学習により、収集した情報を整理し、分析しやすいようにまとめることができるようにする。	課題解決に必要な情報を収集し、整理・分析できるようにする。
国語	お礼の気持ちを伝えよう	GTに話を聞いたお礼を伝える手紙を書けるようにする。	相手や目的を意識して、伝えたいことをより良い形で表現することができるようにする。
国語	新聞を作ろう	各内容の中心を明確にし、文章の構成を考えられるようにする。	整理・分析した情報をもとに提案資料にまとめて発信できるようにする。
算数	折れ線グラフと表	調査結果を表やグラフに表すことができるようにする。	収集した情報を整理・分析する際や発信する際に、より良い表現方法を選択できるようにする。
社会	自然災害からくらしを守る	防災対策に必要なことを考えることができるようにする。	自然災害から人々を守る活動人々を守る活動について学んだことを生かすことができるようにする。
国語	工芸品のみによきを伝えよう	必要な情報を要約して伝えることができるようにする。	相手や目的を意識して、伝えたいことをより良い形で表現することができるようにする。
国語	もしものときにそなえよう	自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができるようにする。	相手の立場になって考えることで、相手のニーズにあった情報を選択し、表現することができる。

9 指導計画(全70時間扱い)

小単元	時数	○主な児童の活動 ・予想される児童の姿	◇手だて ☆評価 □支援 ■教科等横断的な学習	おおた未来づくり科との関連		
				知	思	学
小単元1	1	自助について調べよう				
		大地震が起きたときの行動を考えよう				
	2	○避難訓練で2次避難を行い、実際に大地震が来たら、どのような行動を取る必要があるか考える。 【課題の設定】 ・学校で地震が起きたら場所によって身の守り方が変わってくるね。 ・通学路だったらどうしよう。 ・自分の家だったら2次避難をする場所は変わってくるのかな。	◇(2)避難の体験から、大地震が起きたときの想像を広げて、自分たちの課題として捉えられるようにする。 ☆主一②			
		身の回りの危険な場所を考えよう				
	3・4	○身近な場所の危険を予想し、自分たちの課題を考える。 【課題の設定】 ・音楽室にいるときは、机がないけどどうしたらいいのかな。 ・今のままでは、教室以外の場所にいる時、先生がいないと避難できないよ。 ・本当に、今の避難方法で自分の命を守れるのかな。	◇(2)学校のどこにいても適切な避難行動や近づかない方がよい場所を考えることができるようにする。 ☆思・判・表一①(発言・振り返りカード)	①		
		正しい避難行動を知ろう				
	5	○正しい避難行動や危険な場所を知る。 【情報の収集】 ・地震が起きたら、まず頭・首・手首を守ることが大切なんだね。 ・物が倒れてこない場所を見付けるんだね。 ・学校の中にいるときは、揺れが収まった後に校庭や体育館に行けばいいんだね。	◇(1)必要な情報をインターネットや本で調べ、大きな地震が起きた時の正しい避難行動を知ることができるようにする。 ☆知・技一①(発言・振り返りカード)	①		
	6	正しい避難行動を整理しよう	☆思・判・表一② 知・技一②(発言・振り返りカード)			
		防災の探検計画を立てよう	◇校内マップを活用し、探検に行く場所の計画を全員で共有しながら立てることができるようにする。			
		○正しい避難行動の情報を生かして、防災探検に行く計画を立てる。 【課題設定】				

	7・8	・何を確かめに行こうかな。 ・何を持っていったらいいかな。 ・危険な場所を見付けると、避難に生かせそう。 ・音楽室では、どんな避難の方法が考えられるかな。 学校の危険な場所を探そう ○前時までに学習した災害時の危険に関する知識を基に、校内の危険箇所を見付けることができる。 【情報の収集】【整理・分析】 ・フロアには本棚があるから危ないね。 ・棚にはストッパーがついているよ。 ・整理整頓しておいた方が避難しやすそうだね。	□探検に行く前に避難の方法を考えておくことで、探検で確認することを明確にしておく。 ☆思・判・表－②			
	9～10	よく使う場所での避難を考えよう ○学校の中で避難方法を知らない場所を考え、実際に調べに行き、避難行動を考える。 【情報の収集】【整理・分析】 芝生、生活科広場、理科室、階段 第一音楽室、図工室、図書室、昇降口 ・音楽室は、椅子の下に隠れたほうがいいね。 ・図書室の本棚がたくさんある方は、あぶないね。 ・図工室の机は、教室よりも頑丈だね。 ・フロアは、物が無い真ん中がいいね。	◇各自が実際の場所に行き、気付いたことを観点別に書けるようにする。 □①その場所で大きな揺れが起きたときにどのように行動するかを考えることができるようにする。 ☆思・判・表－③ (発言・振り返りカード・付箋) ☆主－①			②
	11	調べたことをまとめよう ○それぞれの場所で調べたことをまとめる。 【まとめ・表現】 ・よく使う教室の危険が分かったね。 ・場所によって、危険なことが違ったね。 ・これを学校の皆に教えてあげたいな。	☆思・判・表－③ (発言・振り返りカード・付箋) ☆主－①			
	12	学校の危険を知らせよう ○これまで調べた学校の危険について、知らせる方法を決める。 【まとめ・表現】 ・その場所にポスターを貼りたいな。 ・レーダーチャートを活用しようよ。 ・一つにまとめて掲示したいね。	☆思・判・表－③ (発言・振り返りカード・付箋) ☆主－①			②
	13・14	学校の危険を知らせる準備をしよう ○学校のみんなに知らせるための準備をする。 【まとめ・表現】 ・どのくらいの大きさだと見やすいかな。 ・分かりやすくするためには、どんなことが危険か書いた方がいいよね。	◇(3)どんな方法で伝えるのが適切か、思考ツールを使いながら整理できるようにする。 ☆思・判・表－④ 主－② (発言・振り返りカード・ワークシート)			②
	15・16	避難行動を学校のみんなに知らせよう	☆知・技－③ 思・判・表－④ (発言・振り返りカード)			③

	17・18	○学校のみんなに知らせる。 【まとめ・表現】 ・出来上がったポスターを掲示しよう。 ・みんなが見やすい場所に貼れたね。 ・次は、家のことを考えよう。			
	19・20	家の危険な場所を探そう ○家の中について調べる準備をし、調べる。 【課題設定】【情報の収集】【整理・分析】 ・自分の部屋は本棚がありあぶなそう。 ・キッチンにはガラスなどの器がたくさんあった。 ・庭に木があって倒れると危険だな。	☆知・技一① (発言・振り返りカード)		
	21・22	調べたことをまとめよう ○それぞれの場所で調べたことをまとめる。 【まとめ・表現】 ・台所が一番危なそう。 ・対策を考えないといけない。 ・学校と同様にレーダーチャートを活用しよう。	☆思・判・表一④ (発言・振り返りカード・ワークシート)		
小 単 元 2	21・22	公助について調べよう 公助について知ろう ○大島の全島民が素早く避難することができたのはなぜか考えさせる。 【課題の設定】 ・島民の力だけではなく、警察や自衛隊の人たちの力も大きかったよね。 ・この地域で災害が起こった時は、警察や消防も動いてくれるのかな。 ・確か、防災の日とか、地域でも取り組んでいることがあったっよね。 ・久が原の地域の取り組みも調べてみたい。	◇自宅での防災対策を再確認したり、家の人に聞いたことをもとに課題を設定できるようにする。 ☆思・判・表一① (発言・振り返りカード)		
	23～26	出張所・警察署・消防署・民間企業の方の人の話を聞こう ○久が原特別出張所、池上警察署、田園調布消防署久が原出張所では、公助に関してどんな取り組みをしているのか、民間企業では、防災に関してどのような取り組みをしているのか話を聞いてまとめよう。 【情報の収集】 ・地域の避難場所や危険な地域を把握して、その情報を分かりやすく提示していたね。 ・自分たちの地域も細かく避難場所が分かっているんだね。 ・防災を呼び掛ける取り組みも行っているんだね。 ・警察や消防も災害があった時は連携して仕事を行っているんだね。 ・警察署の中でも役割分担がされていて、災害が起こった時はそれぞれの部署でやる事が決められているんだね。 ・消化器の使い方を初めて知ったから、これからもしもの時は使えるようになったね。	◇(1)必要な情報を得られるようにするために、区、	①	①

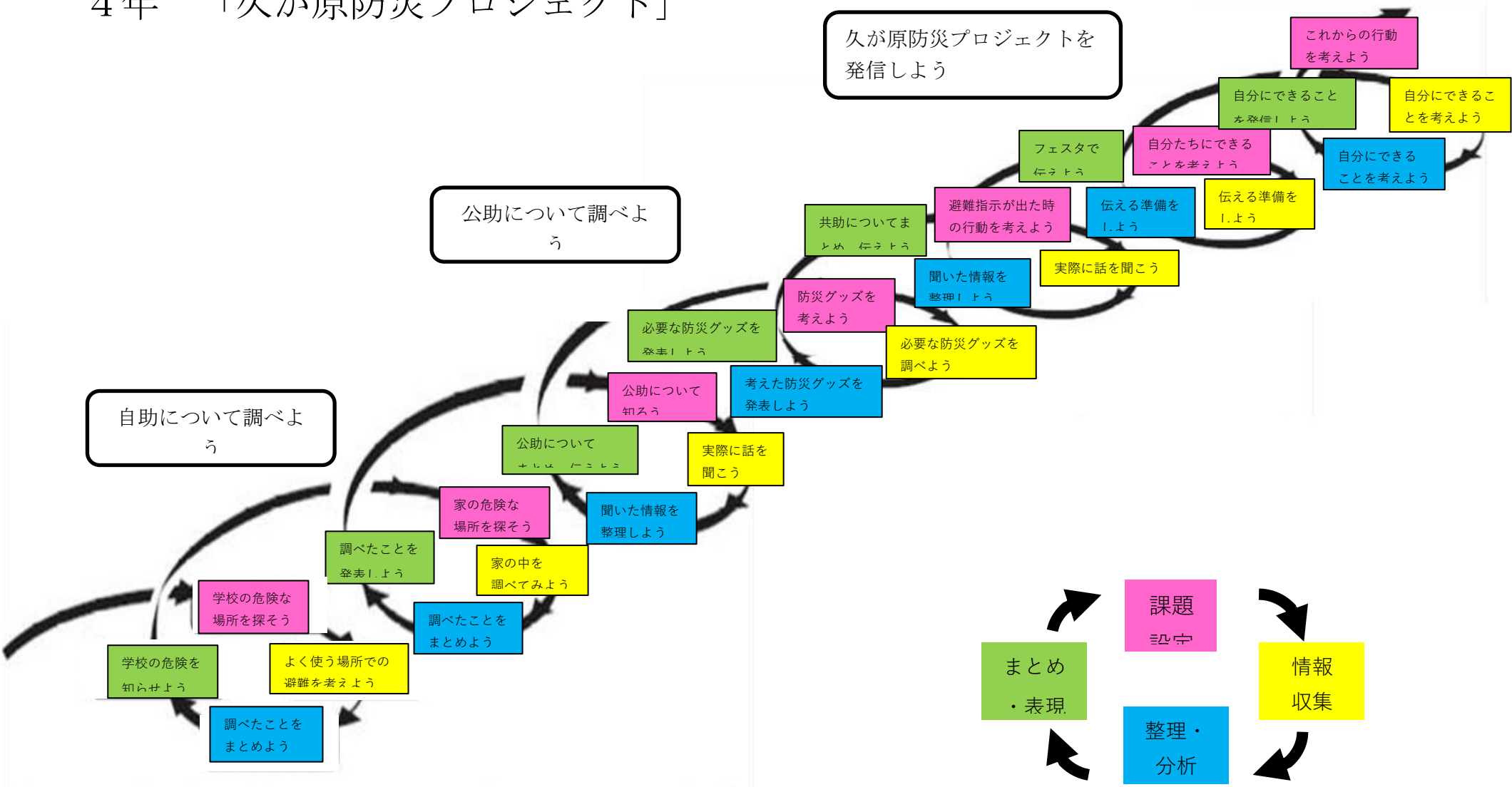
	27・28	・学校などの公共施設にも、防災機器があつて、定期的に点検をしてくれていたんだ。 ・災害が起こった時も、防災機器が活躍して被害が少なくなるんだね。 ・民間の企業の人たちが私たちの安全を守ったことを初めて知ったよ。 区役所の方の話を聞こう	消防、警察、自衛隊それぞれについての関係機関にGTとして来てもらう。 ☐ 自宅の様々な場所での避難行動について周囲の状況をもとに考えることができるようにする。 ☆知・技ー①(発言・振り返りカード)	①	①
	29～31	○危機管理課の方の話を聞き、ハザードマップについての理解を深めよう。 【情報収集】 ・久原小学校に通う人たちは、久原小だけでなく、松仙小や十中や七中にも避難する人がいて、それぞれの地域で異なるんだね。 ・呑川近くの人たちは、氾濫した際、危険だね。 ・久原小近くは高台になっているから少し安心だね。 聞いた情報を整理しよう	◇(1)必要な情報を得られるようにするために、区役所の方にGTとして来てもらう。	②	②
	32・33	○それぞれの方から聞いた情報や公助について調べたことを整理する。 【整理・分析】 ・各機関が公助の際にどのように取り組んだり活躍したりしているか分かった。 ・自助だけでなく公助の力は災害時にはとても大きいんだな。 ・公助では、それぞれの機関が連携しながら活動しているんだな。 公助についてまとめ、伝えよう	◇(3)思考ツールを活用し、それぞれの情報を比べながら考えられるようにする。 ☆主ー① 思・判・表-③ (ワークシート)	②	③
	34・35	○クラスのみんなに知らせる。 【まとめ・表現】 ・出来上がったスライドで分かりやすく伝えよう。 ・まだ公助について知らないことがありそうだな。本などで調べてみたいな。 ・公助だけに頼るのではなく、自助や共助が必要だと分かった。 ・自助を見直すのも大切だね。防災グッズをもう一度考えたいな。 防災グッズを考えよう			
	36～38	○地域の防災の取組について知り、自分たちでもできることを考えさせる。 【課題の設定】 ・公助だけに頼るのではなく、自分たちができる自助が大切なのではないか。 ・自分たちができることと言えば、防災グッズを用意することだと思う。 必要な防災グッズを調べよう	◇(3)思考ツールを活用し	①	②

	39～41	ズを調べたりする。 【情報収集】 ・3日分用意していると良いと聞きました。 ・家のグッズを調べると、家族で一つしか用意していなかった。 ・食料や水以外にも必要なものがあることが分かった。	て、自分に必要な防災グッズを考えさせることで、これからの防災対策につなげていくことができるようにする。 ☆思・判・表－③ 主－② (発言・振り返りカード)			
	42～44	必要な防災グッズを整理しよう ○「マイ防災バッグ」について、集めた情報を整理しながら、考える。 【整理・分析】 ・高齢者や赤ちゃんなどが家族にいと、その人に必要なものを備えなければならない。 ・誰にも共通して必要なものと、個別に必要なものを分けてくると良いと思う。 ・実際に事前に使うことで、本番で困らないようにする必要があるようだ。	☆思・判・表－③ 主－② (発言・振り返りカード)	②	③	
	45・46	考えた防災グッズを発表しよう ○考えた「マイ防災バッグ」について、友達に発表する。 【まとめ・表現】 ・友達に自分が考えたものを発表したいな。 ・友達は何を選んだのか聞きたい。 ・友達が入れていたアルミシートを自分も入れたいな。 ・次は自分達の町のことを考えよう。 ○次の単元についての課題を考える。 ・公助について学んで、自助や共助が大切だと分かった。まだ、共助については知らないことが多いので、知りたい。	☆思・判・表－④ ◇公助と自助で考えてきたことをもとに共助へ目を向けて、課題の設定ができるようにする。 ☆思・判・表－①(発言・振り返りカード)			
小 単 元 3	47	共助について調べよう				
	48	避難指示が出たときの行動を考えよう ○久が原防災ブックを読んで、久が原地域の取組について知る。 【課題の設定】 ・久原小に集まるのかな。 ・実際の地震はどのぐらいなんだろう。 ・公園で遊んでいるときに地震が起きたらどうしよう。 ・区役所では、こういった冊子も作ってるんだね。				
	49	出張所や自治会の方の話を聞こう ○自治会の方や出張所の方の話を聞いて、共助について知る。 【情報収集】 ・出張所の方の話を聞くと、久が原ルールがあることを知ったよ。 ・自治会では、防災訓練を行っているんだな。	◇(3)久が原特別出張所の方や自治会の方から話を聞くことで、地域の中で安全な場所を知ることができるようにする。 ☆知・技－④ (発言・振り返りカード)	①	①	

	50	○それぞれの方から聞いた情報や公助について調べたことを整理する。 【整理・分析】 ・久が原では自治会や出張所が共助についての取り組みをしているのだと分かった。 ・共助では、地域全体でルールを決めて取り組んでいくことが大切だ。 共助についてまとめ、伝えよう ○共助についてまとめ、発表する。 【まとめ・表現】 ・自助と公助と関連付けて共助について発表したい。 ・久が原独自のルールがあることを知り、多くの人に伝えたい。	☆思・判・表－③ 知・技－③(発言・振り返りカード) ☆主－① ☆思・判・表－④		②	
小単 元4	51	久が原防災プロジェクトを発信しよう 自分たちにできることを考えよう ○これまでの学習を振り返り、久が原の安全のために、自分たちにできることを考える。 【課題の設定】 ・学校での避難の行動について、もっと調べて学校の人にフェスタで伝えたいな。 ・マイ防災バッグをほかの人にも伝えて、みんなに自分が必要な防災バッグを考えてほしいな。 ・地域での避難行動をもっとたくさんの人に伝えたいな。	◇(4)地域の中でも児童がよく行く場所を中心に考えることで、今後の生活につなげていくことができるようにする。 ☆思・判・表－③ 主－②			
	52・53	○活動ごとにグループに分かれて、取組を決める。 【課題の設定】 ① 自助 ・マイ防災バッグや災害が起こったときの自分の行動についてまとめよう。 ② 公助 ・災害時の公的機関の役割やその人たちの思い、また、避難所生活のことについて伝えたい。 ③ 共助 ・自治会の方々から聞いた地域の課題や災害時の避難の方法について伝えていきたい。	◇(4)これまで学習したことから、地域の中での自分ができることを考えることができるようにする。 ☆思・判・表－①(発言・振り返りカード)			
	54～58 【55: 本時】	自分たちが考えたことを伝える準備をしよう ○これまで取り組んできたことについて、伝える準備をする。 【情報収集】【整理・分析】 ・自分たちが伝えた内容と関連した情報や、思いや考え、経験等に関連した情報を整理し、発表に向けて内容を精査していく。		①	②	
	59～64	自分たちが考えたことを伝えよう ○自分たちにできる防災対策や学校・地域の防災対策について、全校児童や保護者、地域の人へ発信する。	◇(3)どんな方法で伝えるのが適切か、思考ツール			

		(久原フェスタ) 【まとめ・表現】 これからの行動を考えよう 65 ○これまでの学習を振り返り、自分のこれからの生き方について考える。 【課題の設定】 ・自分がよく行く他の場所での避難行動についても考えて、マイハザードマップをどんどん更新していきたいな。 ・防災バッグは、一年に一回見直していこう。 ・地震だけでなく他の災害についても自分で調べて、どうしたらよいか考えよう。 ・自分たちが地域のためにできることをこれからも考えていきたいな。 自分にできることを考えよう 66～68 ○これまで取り組んできたからできることを発信する準備をする。 【情報収集】【整理・分析】 ・防災パンフレットを作成して、学校や出張所において、保護者や地域の人に伝えたい。 ・防災ポスターを作って、より多くの人に防災に興味をもってほしい。 ・地域で行っている防災イベントに多くの人が参加できるように呼びかけをしたい。 自分にできること発信しよう 69・70 ○自分たちが考えたことを、全校児童や保護者、地域の人へ発信する。 【まとめ・表現】 ・	を使いながら整理できるようにする。 ◇(1)地域の方に久原フェスタでの発表を聞いてもらうことで、地域の人に向けて発信する場を設ける。 ☆主一③ ◇(4)学習のまとめとして、これからどのように自然災害と向き合っていくか考えることができるようにする。	②		
				③		

4 年 「久が原防災プロジェクト」



11 本時の指導(55/70時間)

(1) 本時の目標

まとめ・発表に向けて、前時まで学習した情報を分類しよう。【情報の整理・分析】

(2) 本時の指導計画

時間	○学習内容 ・児童の反応等	◇指導上の留意点、配慮事項 ☆評価
導入	○必要な情報とは、どんな情報なのかを振り返る。 T たくさんの情報の中で必ず発表に入れたい情報とはどんな情報ですか。 ・受け取る側が必要だと思う情報じゃないといけないと思います。 ・思いや考え、体験に触れた情報が大切だと思います。 T では、必要な情報を整理して、発表に向けてまとめていきましょう。 発表に向けて、必要な情報を整理しよう。	◇相手の思いや考え、体験等に触れている情報が必要な情報であることをおさえる。
展開	T どのように情報を整理しますか。 ・思考ツールを使えばいいと思います。 ・4つの仲間に分けるので座標軸がいいと思います。 ○グループに分かれて、話し合う。 T では、今ある情報を座標軸を使って整理していきましょう。 A 【自助】 【公助】 【共助】 B 【自助】 【公助】 【共助】 C 【自助】 【公助】 【共助】 ・自分たちは自助チームだから、警察署の人の活動などは情報として必要ないよね。 ・自助チームだから、防災バックの情報から整理してみよう。 ○座標軸を使って整理した情報を分析する。 ・思いや考え、経験等に関連した情報は、右上の方に集まっているね！ ・思いや考え、経験等に関連した情報は、一次情報の中に入っていることが多いんだね。 ・受け取る側が必要だと感じない情報は発表には使わない方がいいね。	◇思考ツール(座標軸)を活用して、視点をもって情報をまとめさせる。(手立て 3) ◇伝えたいテーマと情報の内容が関連しているか考えさせる。 ◇自分たちのまとめがよりよくなるように友達の考えを取り入れる。 ☆集めた情報を目的に応じて効果的に整理したり、情報に対して気付いたりしている。 思考・判断・表現 (行動・発言・思考ツール)
まとめ	○振り返りをする。 ・整理すると、二次情報が少ないことが分かったね。 ・二次情報がないと、説明が分かりづらいから自分たちで調べた情報も集めたい。 ・一次情報も必要だな。そういえば、今度の休みに地域でイベントがあるからそこで直接聞いてみようかな。 ○次時の見通しをもつ。 ・情報をまとめたので、発表に向けて準備をしたい。 ・フェスタまでにさらに一次情報を集めたい。	◇本時を振り返り、次にやりたいことを考えさせる。(手だて4)

授業観察の視点

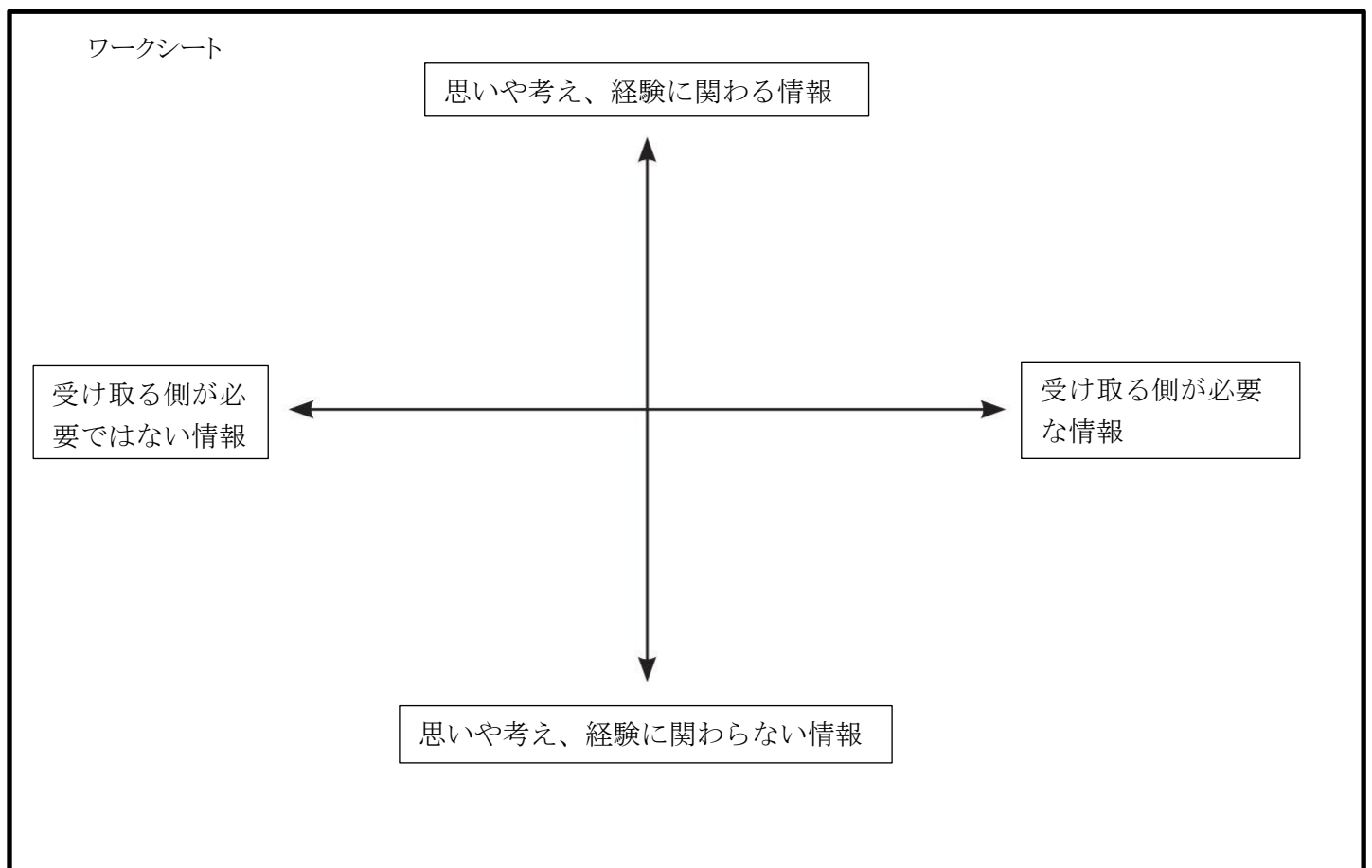
- ・思考ツールの活用は、情報の整理・分析に効果的であったか。
- ・情報の分類(一次情報と二次情報)は、伝えたい内容の説得力を高める手段として、効果的であったか。

12 板書計画

久が原防災プロジェクト			発表に向けて、必要な情報を整理しよう。
A 自助グループ 座標軸	B 自助グループ座 標軸	C 自助グループ 座標軸	座標軸を使って整理する。 ・受け取る側が必要な情報 ・思いや考え、経験に関わる情報
A 公助グループ 座標軸	B 公助グループ 座標軸	C 公助グループ 座標軸	
A 共助グループ 座標軸	B 共助グループ 座標軸	C 共助グループ 座標軸	次にやりたいこと
			・思いや考え、経験に関わる情報は、 一次情報に入っているものが多い。 ・二次情報が少ないので、自分た ちでも調べる必要がある。

13 環境構成

- ・学習過程の分かる掲示物を振り返ることができるようにする。
- ・久が原図書館から災害に関する本を借り、いつでも知りたいことを調べられるようにする。
- ・教科等横断的な学習が分かる掲示物を振り返ることができるようにする。



14 協議会記録

(1) 授業者自評

- ・一次情報と二次情報とのバランスを考えるのが課題に感じた。1学期の早い段階で情報の分類ができるようになるとうい。(一次情報、二次情報、相手の思い・考え、自分の思い・考え)
- ・学習の過程や手順に対するねらいと、実際の子どもの思考や思いの方向に違いがあり、修正をしてもよかったかもしれない。
- ・思考ツールとしての座標軸を用いた。座標軸の観点(項目)については、色々考えた結果だったが、判断基準が曖昧なところがあった。
- ・座標軸に分類する際に、対象がはっきりしていないグループや、分類の内容が細かすぎているグループあった。分類の仕方を確認してもよかった。

(2) グループ協議会

- ・思考ツールを選べたことは、よかった。
- ・こどもたちの意見の交流は活発で、意欲的だった。
- ・分類の難しさがあり、座標軸の必要性について検討が必要だと感じた。
- ・十字の座標軸ではなく、一方の軸だけでもよかったのではないか。一次情報と二次情報の軸だけのほうが、こどもたちには、分かりやすくなる。今回の目的は達成できたのではないか。
- ・座標軸の言葉をもっと簡単することや、基準を分かりやすくすると、分類がしやすくなった。
- ・振り返りの時間をさらに取れるとよかった。
- ・今回では、「相手」の意識が低かった

15 指導・講評 大田区教育委員会 統括指導主事 秋山 亮先生

- ・「おおたの未来づくり」について、4年は何をしていくかの視点で進めていく。
- ・学習指導要領の「創造的な資質・能力の素地」の育成をもとに、進めていくことが大切である。

本時について

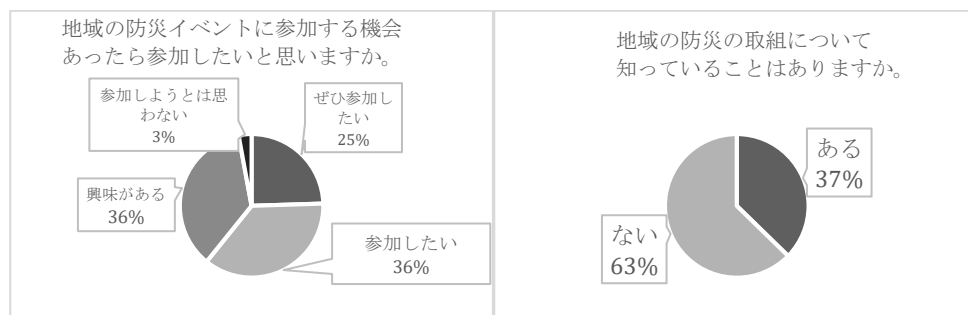
- ・今回は、自分たちができる防災の取り組みについて、目当ての学習計画を自分たちで設定していてよかった。
- ・学習のスパイラル、70時間の単元計画、連携先が明確でよかった。
- ・4年生としては、思考ツールを繰り返し使い、練習していくことが、5年6年での活用につながるので、使いこなせようにしていくことが大切であるので、現段階では、適切であった。
- ・こどもたちの意見はオクリンクで集約され、全体で共有していた。日頃からのICT活用が見られた。

総合的な学習の時間

- ・指導案に創造的な資質・能力の素地を育成する視点の設定や他教科での素地を育成するための視点をより明確にしていくとよい。どのような活動を通して、どのような素地を育成するか、そのためにどのような手立てを用意するかを考えていく。気を付けることは、単元全体の流れは無理に変えないことである。無理に変えたりすると、教科や単元でのそれぞれの資質能力の育成を妨げてしまう恐れがある。総合でこそ育成できる資質・能力を大切にしていく。

16 考察

(1) 事後アンケートから



3月に事後アンケートを行った。「地域の防災イベントに参加する機会があったら参加したいと思いますか。」に対して、「ぜひ参加したい」「参加したい」と考える児童が15ポイント上昇し、よりポジティブにイベントの参加を捉えることができるようになった。また、「地域の防災の取組について知っていることはありますか。」に対しては「ある」と答えた児童が13ポイント上昇するとともに、久が原地域の取組内容についてどんなことを知っているかを問うと、事前のアンケートよりも具体的な内容を挙げる児童がほとんどであった。この学習を通して、地域の防災についての関心や「地域の中の一人」という意識はより高まったと言える。

(2) 成果と課題

【手だて(1)】地域と連携・協働して課題を解決するようにするための手だて

成果

- ・大田区防災危機管理課や久が原特別出張所・久が原地区自治会などの地域の方に話を聞いたり、防災に関する本を久が原図書館の団体貸出で借りたりすることで、地震に関する正しい知識を学び、地域の防災対策について情報収集できるようにすることができた。また、公的機関が災害時に自分たちが安全に過ごすために準備しているということを知ることができた。
- ・児童が地域で災害が起きたらどのように行動するべきか考え、久原フェスタを通して地域の人たちに発信することができた。

課題

- ・地震が起きたときの行動についての制作物を図書館や出張所に置かせてもらうことまで想定していたが、実行することができなかった。公共施設の他に、公園や掲示板などを管理している方と連絡をとる必要がある。

【手だて(2)】身近な生活・地域・社会から、問題を見付け、自分で課題を立てる機会を設定するための手だて

成果

- ・フロアに自然災害に関する本、関連のチラシやサッシ等を設置することで、地震に対して関心をもって、進んで調べることができた。
- ・自宅の防災バッグや備蓄について調べたり、自分の暮らしている地域とハザードマップを照らし合わせたりすることで、自分にとっての課題が明らかとなり、課題解決に向けてそれぞれが目的をもって活動することができた。

課題

- ・地域は協力的に動いてくれるので、こどもたちに地域への視点を向けさせたい。そのために、今後はGTと

して招く機会を増やし、地域の声聞けるようにしていく。

【手だて（３）】課題解決に向けて必要な情報を適切な方法で集め、考える技法等を使って整理分析し、解決へ向けた行動を取ることができるようにするための手だて

成果

・子どもたちは、「ウェビングマップ」「Y (X) チャート」「ベン図」「PMI」「座標軸」等を使ってきた。また、「総合的な学習の時間」だけでなく、国語科や社会科、理科などの学習場面でも使ってきた。そのためでは、思考ツールに対しての戸惑いは少ない。さらにICTを活用し、個々の考えを全体で閲覧し、共有することで考えを広げることができた。

課題

・一学期の早い段階で情報の分類ができるようになるとよい。教師側が意識的に思考ツールや情報の分類の仕方を指導していけるとよい。

【手だて（４）】自己の生き方を考えることができるような機会や場を設定するための手だて

成果

・自宅の位置や久が原地区の特性、現在の自分の災害対策状況などを導入で把握した上で、各小単元に入れたことで、GTの講話、ハザードマップ、防災HPなどから、必要な情報を集めることができ、自己の生き方について考えることができた。

・学校や地域の中での、児童がよく使用する場所を中心に避難行動を考えさせることで、今後の生活に生かせることができた。

課題

・「自己の生き方」について振り返る場面が少なくなってしまったので、小単元ごとに振り返る時間が必要だった。

・教科横断的に「考える力」を高めさせたい。自ら考え、実行する習慣を身に付けさせることが探究力を高めることにつながる。